

ひめだ高宏ニュース

NO.722

'06.6.15

6月定例会市議会報告

6月13日(火) 6月定例会市議会が開会しました。この日は、議長・副議長の選挙が行われ、満場一致で議長に、貴志啓一氏(正和クラブ)、副議長に、遠藤富士雄氏(新政クラブ)が選ばれました。その後の本会議冒頭で、15年勤続表彰で、日本共産党から森下佐知子議員と私、ひめだが表彰を受けました。みなさんの手で市議会へ送っていただき今年、これを機にあらたにがんばる決意です。

紀の川大堰建設に関する決議を採択

6月15日(木)市議会本会議で、「紀の川大堰建設計画に関する決議」が全会一致で採択されました。

この決議は、本年2月、和歌山県議会に提出された議案「紀の川大堰建設に関する基本計画の変更」が和

歌山市に重大な影響を与えることから、国土交通省と県に抗議し、当初の計画どおり作業を進める確約を取りつける協議の結果、国、県、市、地域住民の間で取りかかれた確約書を遵守し次の事項について強く求めるもので、議長を除く全議員が共同で提案しました。

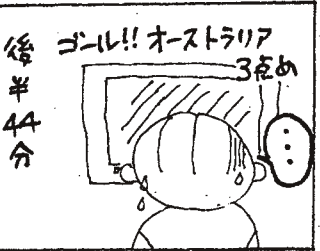
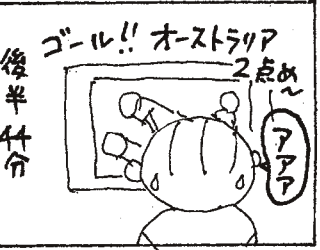
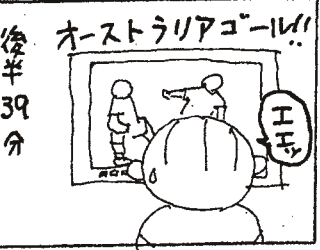
1. 国土交通省は当初の計画どおり新六箇井堰の完全撤去と河道の掘削を行うこと。

2. 国土交通省は、平成19年度(09年度)概算要求に上記計画を盛り込むこと。

3. 紀の川大堰完成時の平成21年度末(09年度末)を目途に工事を完了させること。

フリーの人々

(505)



日本共産党 市議会議員

今議会もら入会員が質問

6月15日から一般質問が始まりました。日本共産党

の質問内容は、次号から順に報告していきます。

こんにちは

県会議員の

ふじい健太郎

(その151)

ービスを払い下げる手法として推進し、自治体でないのでできない仕事があるからと水を立証することまで求められています。

もちろんムダな事業や住民に役に立たない事業は廃止する必要がありま

すが、医療、福祉、教育や環境保全といった住民生活に直結した仕事は自治体が責任を負うのが基本です。県は「事業仕分け」について、6月30日

まで県民の皆さんの意見を募集しています。ごしお寄せください。

を實施します。予算のついては「廃止」「民間委託」「国が市町村」を区分し県でするとしてもど

水だけ縮小できるかを個々の事業ごとに判定していくというものです。

1600の事業の中には税の賦課・徴収や生活保護の決定など権力的な仕事から住民生活に直結する仕事まであります。

国がこの「事業仕分け」を民間事業者に公共サ



ふじい健太郎 県議員

6月定例会市議会の一般質問事項

順	議員名	質問事項
1	松本 哲郎 (公明党)	・安心・安全のまちづくりについて
2	ひめた高免 (日本共産党)	・平和行政について ・生活環境の整備、スポーツ施設について
3	奥山 昭博 (公明党)	・子ども安全について ・和歌浦バスマラソンwith ジャズについて
4	後 みつる (日本共産党)	・水道事業について ・生活環境政策について
5	野嶋 広子 (新風クラブ)	・観行行政、国の改革に伴う地方行政のあり方 ・市民提案実施事業、教育行政について
6	南畑 幸代 (日本共産党)	・介護問題について ・男女共同参画について
7	中 拓哉 (公明党)	・市長の政治姿勢、不審浮場について ・予算の執行状況、議案承認、条例、組織
8	大畑 圭馬 (日本共産党)	・公共工事について ・産廃問題について
9	北野 均 (新風クラブ)	・市長の政治姿勢について
10	藤本 眞利子 (民主クラブ)	・食育について、子育て推進はびに安全対策 ・学校の情報管理、DV問題について
11	森下 佐知子 (日本共産党)	・旧同和対策について ・福祉行政について

こんにちは 日本共産党



「ひめたニュース」の読者のみなさん、こんにちは、奥村のリ子です。7月30日投票予定の県議会補欠選挙への立候補を決定しております。

私は31年間、和歌山生協病院の医療や介護の現場で働いてきました。「いつでも、どこでも、だれでも、安心して受けられる医療」をめざしてがんばって来ました。ところが、小泉内閣は国民に痛みばかり押し付けています。国の政治が悪いときこそ、いのちとくらしを守る県政がますます。

求められています。今度は政治の場でみなさんの切実な声や願いを届けたいと思っています。どうかみなさんの願いをお寄せください。よろしくお願い申し上げます。



奥村のリ子
(県議補選
予定候補)

潮流

(06. 6. 9日刊) だれがいい始めたの界の言葉」とたとえから水です。アフリカのラムの子どもと、ブラジル代表の天才ロナウジーニョ選手の間には、ボールを追う、けるという一点で、言葉の壁はありません。▼先日、国連のアナン事務総長と国際サッカー連盟のブラッター会長が、ワールドカップ(W杯)ドイツ大会に向けてよびかけました。「サッカーは世界共通の言葉であり、異なる社会や文化として宗教の懸け橋とな、てくれます。▼2人のよびかけは続きます。「さらに、国連がサッカーに力を注いでいるのは、難民収容所や武力紛争から立ち直ろうとしている国々の子どもたちが抱えている戦争に対する悲しみを癒やすためです」

▼とはいえ広い地球、地域差はあります。W杯では、過去17回で優勝を経験している国は7つ。いずれも、ヨーロッパ、南米です。対して、「サッカー未開の地」とさえよばれる地域がオセアニアです。▼オセアニアからのW杯出場は、いままでオーストラリア、ニュージーランドの2回です。計2回しかありません。まだノ勝もなし。しかし今回、オーストラリアは鍛え直した一味違うそうです。ノ勝すれば、勝利を味わった国がすべての大陸におよびます。W杯は、名実ともなう世界の祭りに近づきます。▼オーストラリアをまず迎えるのが、日本代表です。大会はさよう始まります。いま一度、2人のよびかけを、「発展や平和を探し求めるため、サッカーというマニックをつないでいきたいと思います」

ぶん 赤旗 日刊 2900円/月